

(データベース整備戦略作業部会報告書)の概要

## 1. 問題点

- ①我が国のデータベース整備について長期的かつ国家的視点に立った戦略を立案する機能及び実行に移す体制が不足。
- ②データベースが散在しており、データベースの所在情報等が誰にでも分かるようになっていない。  
また、研究コミュニティ間で、データベースや用語の体系化が行われていない。
- ③データベースを継続的に運用していくための維持費用の確保が困難。
- ④国等の大型プロジェクトの成果の公開が進んでいない。また、データベースが日本語化されていない、データの解析・解釈が付されていない等から、産業界等の利用者の利用が困難。
- ⑤シミュレーションなど関連研究との連携が希薄。
- ⑥データベース作成・維持、質の向上等のための人材が不足。

28

## 2. 取り組むべき課題

- ①ライフサイエンス、バイオ産業全体を見渡し、国家的視点に立った戦略立案・実行を可能とする体制を整備すること。
- ②DNA配列やタンパク質立体構造のような基盤的なデータベースを安定的に支援する体制を整備すること。
- ③データベースの所在情報、利用法などが分かるポータルサイトを構築・運用すること。
- ④統合化されたデータベースの開発、そのための技術の研究開発・体制整備を進めること。
- ⑤プロジェクト終了後のデータベースを受け入れ、維持管理するための体制を整備すること。
- ⑥実験データと文献に書かれた知識を対応させる仕組みを確立するとともに、未解釈、未解析のままのデータをアノテーション（生物学的医学的な解釈を加えること）することにより、データベースの付加価値を高めること。
- ⑦ライフサイエンスの展開に対応したデータベース開発を支援する体制を整備するとともに、データベースの利用技術（バイオインフォマティクス）の研究開発を促進する方策を講じること。
- ⑧データベースの構築や、そこから有用な知識を引き出したりできる人材を養成すること。

### 3. 推進方策

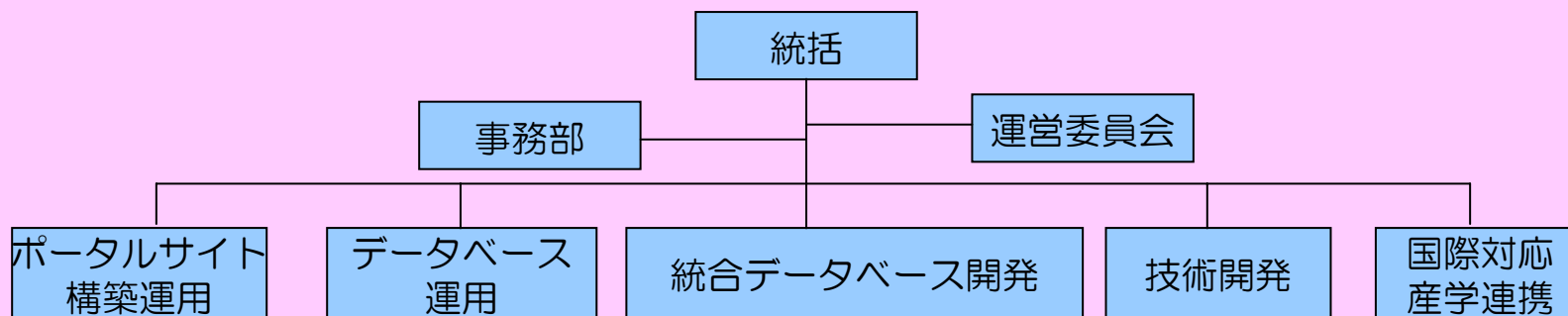
- ①データベースの現状調査、評価、戦略立案機能の充実
- ②基盤データベースの安定的な支援
- ③データベースの所在情報と利用法に関するポータルサイトの構築と運営
- ④統合データベースの開発とそのための研究開発の促進
- ⑤維持が困難になったデータベースの受入れ
- ⑥文献情報との連携
- ⑦アノテーション（情報解読による実験データの注釈付け）の実施
- ⑧新たなデータベース構築への投資
- ⑨データベースを活用した研究の促進
- ⑩データベース開発のための人材育成

### 4. 推進体制

(A) 連携のための戦略委員会：関係省庁間の連携のための司令塔的な役割を担う

(B) 関係機関による連携、調整のための枠組み：戦略委員会の計画を実行に移す組織として機能

(C) 中核的機能を担う体制：標準化や、効率化の中心的機能を果たす



### 5. 緊急に取り組むべき課題

- ◆全ての推進方策の基礎となる「①データベースの現状調査、評価、戦略立案機能の充実」への取り掛かり。
- ◆「③データベースの所在情報と利用法に関するポータルサイトの構築と運営」に向けたポータルサイトの設計、試作品の作成。
- ◆「④統合データベースの開発とそのための研究開発の促進」に向けた用語の統一、記述形式の標準化、データの共有化及びそのための技術開発
- ◆長期的な取り組みが必要になる「⑩データベース開発のための人材育成」